

# コロナ禍における 登校しての実習について

(生体構造医学分野において実施した実習の進め方)

# 脳実習や骨実習など実物標本を用いた実習について

## 【前提条件として】

- ・ 実物の観察は解剖実習室内でしか行うことができない。
- ・ 実習室には従来の半数を収容する。
- ・ 従来は実物観察、顕微鏡観察、課題レポート提出を行っていた。

## 【実施内容】

- ・ 2か所の実習室を使用して半数ずつ収容する。
- ・ 解剖実習室内で実物標本の観察等の実習を行う。
- ・ 病理・組織実習室で、顕微鏡を用いた観察および課題学習を行う。
- ・ 途中で学生を入れ替えることで、両方の実習を行う。

ただし、実物実習時間が従来より短くなるため、学生が事前に予習などの準備をしっかりとすることが重要となる。

# 実習の進め方について

記念講堂に集合し、指定座席で  
当日の実習説明を簡潔に行った。  
(実習書は事前に郵送にて配布)



その後、前後の間隔をとりながら  
実習室へ移動した。  
(教室員が要所に立ち誘導)

2か所の実習室に半数ずつ分散して  
収容



# 実習室①（病理・組織実習室）

各個人用スペースに間仕切りを設置

出入り口および随所に手指消毒用エタノールを設置

窓の解放、

空調による換気管理





## 実習室②（解剖実習室）

前室（下足箱および白衣着脱）はクレベリンによる空間除菌  
出入り口および随所に手指消毒用エタノールを設置  
各実習テーブルに除菌用エタノールスプレーを設置

全体陰圧換気

空調管理

工場扇を設置し強制換気





# グループ分けについて

従来、1か所の実習室で行っていた実習を2か所の実習室を使用して行うために、2グループに分けた。

また実習時間を前半・後半に分け、途中でグループの入れ替えを行った。

	前半	後半
実習室①：課題学習・顕微鏡観察	グループA	グループB
実習室②：実物実習	グループB	グループA

実習時間を厳守し、居残り等も認めなかった。

実習後は会食等を避け、速やかに直帰するよう指導した。

なお試験前の土曜日を用いて午前中はグループAのみ、午後はグループBのみに自習時間を設定した（参加は任意）。

# 実習時の学生について

白衣の着用（従来通り）

上履きの着用（従来通り）

手袋の着用（従来通り全員配布）

ゴーグルもしくは保護メガネの着用（従来通り）

キャップ（従来は希望者のみ配布）

→全員着用（配布）

マスクの着用（従来は希望者のみ配布）

→全員着用

不織布ガーゼおよび活性炭フィルターマスクを配布

（個人のマスクをそのまま使用しても可）

マスクガードの着用（マスクの上からさらに着用）（配布）

# 肉眼解剖実習について

- ・実習台は1台ずつ換気装置がついており、強制換気が可能。  
実習室内の全体陰圧換気および工場扇による強制換気も併用した。
- ・肉眼解剖実習は解剖実習室内でしか行うことができないため、各実習テーブル（最大収容人数6名）あたりの配置人数は4人としたが、そのうち1人は交替で休憩や調べものなど（病理・組織実習室内にて）をすることとし、実人数3人で実習を進めた。
- ・実習時間の延長および居残りを認めず下校時間を厳守させた。  
また同様に実習日以外の登校や自習も認めなかった。  
従来より時間的な制約が大きいいため、集中して実習に臨むよう指導した。

# 組織実習について

組織実習の際には、

従来、病理・組織実習室内のみ利用可能であったvirtual slideシステムを拡張し、一時的に解剖実習室内でも利用できるようにした。

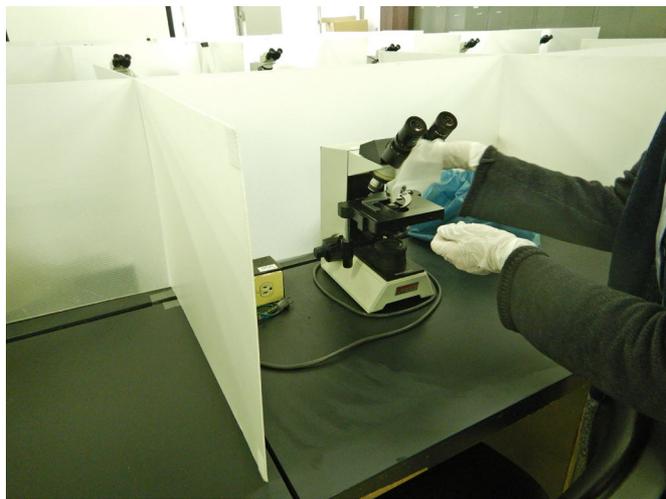
病理・組織実習室内での説明などを解剖実習室内でもそのまま視聴できるように映像および音声の伝送システムを導入し、解剖実習室内の大型モニターにて視聴できるようにした。

	前半	後半
実習室①：顕微鏡観察	グループA	グループB
実習室②：virtual slide観察	グループB	グループA

## 病理・組織実習室



## 解剖実習室 virtual slideシステムを拡張



顕微鏡は教員が1台ずつ事前に除菌

# まとめ

- ・ 実習内容などは事前に実習書や資料を配布することで、当日の説明をできるだけ簡略化
- ・ 実習時間の厳守と実習以外の不要な登校を禁止
- ・ 学生が事前に十分に予習することで、実習時間の有効活用を指導
- ・ 従来の収容人数の半数ずつ行うことで学生間の間隔を空ける  
また座席指定を行う
- ・ 換気を十分に行う
- ・ エタノールスプレー等を随所に設置する
- ・ 個人用保護用具を配布する